

令和3年度同窓会総会に寄せて

校長

佐野 修

昨年、そして本年も開催できませんが、令和3年度山梨県立甲府東高等学校同窓会総会にあたり、御挨拶を申し上げます。同窓生の皆さまには、日頃より、母校である本校の教育活動に深い御理解と多大なる御支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、依然として終息の見えないコロナ禍により、本年度の教育活動も、新型コロナウイルス感染症拡大の波に左右される状況が続いております。毎年4月末に実施しているPTA総会は、昨年同様に中止となりました（書面審議にて実施し、学級PTA懇談会のみ、オンラインで実施）。生徒の部活動における、5月の高校総体や6月のインターハイ予選は、無観客での実施となっています。

また、昨年は蒼龍祭ができませんでしたので、今年は何としても実施し、今までの伝統を継承（ブロック発表・似顔絵・切り絵・クラス報知など）していかなければならない状況でした。しかし一方で感染リスクを考慮した場合、全てを復活させるわけにはいかず、コロナ禍で可能な取組内容へと転換しなければならぬものもありました。例えば、クラス対抗合唱コンクールは、ショートムービーコンクールへ、2日目の各クラス模擬店の出店は、運動会へと変更せざるを得ませんでした。しかし、このような制限・制約の中でも、生徒達は前向きに取組内容を検討し、適切な工夫改善・運営を行い、見事に新たな蒼龍祭を成功させてくれました。

夏休み中には、最大の第5波が到来し、休み明けから学校には再び分散登校が求められる事態となり、芸術鑑賞会や球技大会など、「密」となる可能性の高い行事は、相次いで中止としました。後期が始まり、今、最も心配なのが修学旅行です。昨年は12月の沖縄から2月上旬の関西方面へと、日程や旅行先を変更して実施を目指しましたが、第3波の緊急事態宣言の延長を受けて、やむなく中止としました。現3年生には、本当に申し訳なく思っています。現在、感染が落ち着きつつありますので、今年こそは、予定どおりの実施を祈るばかりです。

コロナ禍となって改めて痛感したことは、学校教育における体験活動の大切さです。一人では、また机上だけでは十分理解できないものを、生徒が仲間と交流しながら、五感全体で感じ、捉えていく営みを、工夫して確保していかなければならないと思います。毎年3月に実施している英国研修や災害被災地復興支援活動などが再開困難な中、今年度は、夏休み中に県内企業へのインターンシップを初めて導入し、1年生の希望者を中心に30名ほどの生徒が職業体験の機会を得ることができました。今後も教職員一同、力を合わせて体験機会の確保、教育活動の工夫改善に努めて参ります。

同窓会員の皆さまには、これからも変わらぬ御理解、御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、本校同窓会の益々の御発展と皆さまの御健勝、御活躍をお祈り申し上げ、あいさつと致します。